

会 議 録

1 会議名

令和4年度第9回保倉区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

- ・「地域活性化の方向性」について（公開）

3 開催日時

令和5年3月23日（木）午後6時00分から午後7時5分

4 開催場所

上越市立保倉地区公民館 研修室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 丸山隆夫（会長）、池田つえ子（副会長）、今井二三夫、梅澤恭子、
荻原輝義、笠原純一、河瀬青志、佐野宏、山本 均（欠席者3名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【丸山会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：今井委員、梅澤委員に依頼
- ・議題【協議事項】「地域活性化の方向性」について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

- ・資料No.1 「『地域活性化の方向性』の検討について」、資料No.2 「保倉区の地域活性化

の方向性について出された意見【再整理】」に基づき説明

本日は、「地域活性化の方向性」の構成要素について協議いただきたい。事前に送付した検討シートで構成要素を各委員より考えていただいたかと思うので、皆さんからお話しいただきたい。

【丸山会長】

それでは、各委員が考えてきた構成要素について発言いただきたい。

【山本委員】

色々と考えてみたが、保倉区で最も大切なことは何かと考えると、人口を増やすことだと思った。それを皆さんと考えると、少しでも保倉区の魅力を発信していければよい。やはり、町内に元気がないと、地域に活力や元気が出ない。何かイベントを実施したくても高齢者ばかりでは、なかなか活動できない。青年会も昔は活発ではあったが、色々なことを行いたくても今は担い手となってくれる人がいない。そういう現状の中で、保倉区の立地を強みにし、移住者を増やす方法を皆さんと考えたい。資料にもあるが、ホームページや小冊子で各町内をPRできれば、移住につながるのではないか。移住希望者にPRできる身近な情報を持っているのは各町内である。保倉の強みは土地が安いことである。そこをPRして、若い方に来ていただきたい。私の町内では、3月にお年寄りが1人施設に入られ、空き家になった。そこに新しい家族が入って来られた。帳尻は合うのだが、若い方がなかなか入って来ない。北諏訪区や諏訪区でも地域の魅力を伝え、移住者を増やす取組をされているらしい。保倉区も力を入れていってはどうか。上越市も取り組まれているが、保倉区としても取り組んでいければと思った。

【佐野宏委員】

- ・自然環境をいかす
- ・新農業への企画
- ・地域住民のつながり（コミュニケーション）の推進
- ・歴史・文化を育む環境づくり
- ・保倉が楽しいと思える環境、地域づくり

【河瀬委員】

- ・インフラ整備
- ・若者のUターン、移住者を増やす
- ・学校区の見直し

- ・保倉地区体育大会、球技大会の継続
- ・伝統行事の掘り起こし

山本委員がおっしゃたように人口の増加のためには、インフラの整備が必要である。そうしなければ、若者のUターン、移住者は増えないと思う。それから、保倉地区体育大会、球技大会を復活して、活性化を図る。新たに活性化と言っても、なかなか難しい面があるのではないか。また、以前、公民館で作成した地図に記載されているように各町内で色々な行事等がある。それらをもう一度掘り起こし、活性化を図ってはどうか。

【笠原委員】

- ・防災を中心とした環境づくり
- ・小学校を中心とした地域住民が参加できるイベントの実施
- ・公民館の利用

保倉区の自然と農地の活用し、若い人たちが住みやすく、子育てしやすい地域にしていきたいと考えた。これまでも「保倉に家が建つ」と看板を製作してPRしていたが、ライフラインが整わないとなかなか前に進まない。ライフラインを疎かにしては、地域はよくなっていかないのだろうと思った。

構成要素については、保倉区は17町内会あり、広い地域である。高齢者も増えているので、何か起きた時のことを考えていったほうがよいと思った。また、地域に保育園、小学校があるので、存続させていきたい。

【荻原委員】

地場産業である農業の特色をいかさなくては、活力は出ないと思う。取り組む人がいなくなれば、地域がなくなってしまう気がする。青野地域では、今年からはほ場整備をするらしいが、そういう話を聞くと、まだまだ夢があるのではないかと思う。

少子高齢化の問題には、やはり学校区の見直しが必要だと思う。行政からも協力してもらいたい。

これは、行政への要望だが、市街化調整区域の見直しをお願いしたい。保倉区は市街化調整区域がネックになり、なかなか家が建てられない。もっと弾力的に運用できるようにしてほしい。

【梅澤委員】

- ・若者と高齢者の交流を図るイベントの実施

この辺は畑と田んぼが多いが、畑が荒れてきているので、若者と高齢者が協力して、

畑を活用して作物を育て、販売するようなイベントを推進してはどうか。

団塊世代の人たちは、若者が考えたイベントに消極的な方が多い。そのため、若者のアイデアを潰さず、その世代の人たちをどう動かすかも課題だと感じている。

【今井委員】

- ・小学生から老人まで参加できるイベントの実施（カラオケ大会など）
- ・災害、犯罪の少ないまちとなるような取組の実施

【池田副会長】

保倉区のよいところも悪いところも全部、活性化にいかせたらと思って考えた。以前、小学生から見た保倉のよいところで、ほくら米、地元農園のトマト、ハクチョウが挙げられていたということも思い出しながら、資料No.2を基に考えてみた。まず、自然環境に恵まれていて、農業地域であり、畑作をされている方が多いというところから、余った生産物を販売するイベントや、生産物の中から特産品ができればよいと思った。コロナ禍で地域住民が集まる機会が減っている。公民館でほくら文化祭を行っているので、そこに子どもから高齢者まで幅広い年齢の方から絵や写真を出品いただければ、若い人ばかり、高齢者ばかりということがなく大勢の人が集まるのではないか。そして、その際に保倉区の生産物、特産品を販売できたらよいと思う。

それから、空き地・空き家、少子高齢化がいつも協議の中で話題に上るが、たしかにインフラ整備をし、若い人に移住してもらうのも大事だが、その前に、今住んでいる人が自分の土地などに責任を持つことも大事だと思うので、エンディングノートの作成も必要だと思う。

【丸山会長】

- ・保倉地区体育大会、球技大会の復活

コロナ禍で途絶えてしまっているが、この2つは、地域の融和に非常に貢献していた。各町内の町内会長は地域のことをわかっているが、地域全体で活動する場がなくなってしまったので、住民の皆さんは他の町内のことをほとんど知らないと思う。保倉は元々、団結力の強い地域である。それが今、薄れてきているように感じている。2つの行事が復活できれば、その辺もまた戻ってくるのではないか。

今ほど、皆さんから発言いただいた意見を踏まえ、構成要素をどうするかについて意見を求める。

また、他の委員の意見への賛意でもよいし、感想でもよいので、意見があれば発言い

ただきたい。

荻原委員が言われていた市街化調整区域についてだが、前市議会議員が在職されていた頃から、市街化調整区域から外してほしいと市へ要望してきた。それが、何年か前にルールが見直され、公道に面した空き地については住宅を建てられるようになったが、集合住宅の建設や新たな道路の整備はできない。保倉区は公道に面した場所に大きな畑もあるし藪もあるので、道路を造り、敷地の奥まで整備したいと思っても、それはできないという市の回答であった。それでは、せっかくルールが見直されても、新たに家を建てる人は少ないのではないかという話もしたが、そのままであった。

それから、学校区の話だが、浦川原、安塚、大島は中学校が統合される。保倉区でも学校区の見直しができないわけではないと思う。

【笠原委員】

地域活性化の方向性に関連した話ではないが、学校区の話もそうだが、なかなか前に進まない。私が感じているのは、市の情報など、色々な情報が町内会長連絡協議会に届いていないのではないかということである。ある人から、保倉川放水路の工事に着手した際に、土のやり場に国も県も困っていて、糸魚川市まで話がいつているらしいが、保倉区の人はどう考えているのかと聞かれ、初めて知った。そういう情報も町内会長連絡協議会には入っていないのではないか。

学校区の問題も、私が町内会長の時から前市長に話をしてきたが、市から町内会長連絡協議会に話があったということも聞かないし、以前にそういう動きがあったということも理解していないようである。要するに、市の情報に精通する人がいなくなったので、町内会長連絡協議会に情報が入って来なくなってしまったので、もっと情報収集をする体制を整えないと、私たちが地域をこうしたいという話をしても、前に進まないのではないか。

【丸山会長】

笠原委員が言われた話は、我々が話すより、市議会議員へ話していけばよいのではないか。保倉川放水路を建設するのに、掘り起こした土のやり場に困っているのであれば、保倉区内の余っている土地にそれを使い、埋め立てれば、そこにも家を建てられるようになるのではないかと思った。

【佐野宏委員】

地域の活性化や課題などを協議すると、どうしても政治が関わってくる。少子化問題

やインフラ整備など、動かすのはやはり政治である。

市街化調整区域の話で、私の町内でも公道に面した土地に看板を立ててPRしている。土地を見に来る人もいるが、上下水道を引くために膨大な費用がかかるので、そこで挫折してしまう。だが、私の町内で2軒ほど転入者があった。そこは、町内で紹介している土地ではなく、個人の空いた土地であった。他の町内でも同様の例があると思う。

では、これから保倉区をどうするかという話だが、政治をどうするかということもあるが、地域協議会としては別問題である。なので、今、委員の皆さんが考えて来られたことを整理していくということになるのだと思うので、そこをまとめていかななくてはいけないと感じている。

昔、保倉区の地域について調べたことがあったが、各町内で全く異なっていた。当時、一番若々しいのは石川で駒林もなかなか進んでいる地域であった。五貫野は工業化、小泉など南部は農業の地域で、青野は上、中、下とそれぞれ違っていた。当時もこれをまとめるのは難しいと思った。そのような地域なので、今、皆さんが発言された内容を絞ってまとめていくしかないと思う。

小学校区の話は、私が町内会長をしていた当時、前市長から聞いた話だが、望ヶ丘の町内会長からもそういう話があったというが、今はわからない。保倉の人口減少の問題を解決するには必要なことではあるので、今、動けばどうにかなるのかもしれないが、地域協議会が動くのか。笠原委員にお聞きするが、町内会長同士でざっくばらんに話し合うことはできないのか。

【笠原委員】

今の町内会長を訪ねて、話を聞くことはできる。住んでおられる方は割と保倉小学校に通ってもよいと考えている方が多い。

以前、防災の面で、保倉川の水があふれた際に何故、川を渡って大養のほうに避難しなければいけないのかという話もあった。今は堤防が整備されてあふれなくなったが、昔は大変だった。

前市長に何度か話したと先ほど言ったが、行政が頸城区に正式に聞き取りなど話に行ったことはないと思う。合併前に望ヶ丘団地の6世帯くらいが保倉小学校に通っていたこともあった。だが、橋が造られたこともあり、大養小学校に通うようになった。望ヶ丘団地の後に美しが丘団地ができた。少し離れているので、美しが丘の子どもは大養小学校でなく、南川小学校に通っている。そして、頸城中学校で一緒になる。中学生はこ

れまで自転車通学であったが、今年度からはバス通学になっている。そういう話を保倉区の町内会長は知らず、市役所で決められている。

今、話した防災のことだが、現在は望ヶ丘の住民は、保倉小学校に避難することになっている。その話を町内会長連絡協議会の会長に話したが、何も知らなかった。災害時に望ヶ丘の方は保倉小学校に来れるが、そのことを保倉の人に知られていない。

【佐野宏委員】

保倉小学校が避難所になっている町内に話があったので、町内会長連絡協議会の会長もその話は知っているはずである。

【笠原委員】

何にせよ、そういう話を町内会長連絡協議会がきちんと伝達を受けて、住民に知らせないといけない。

【丸山会長】

他に意見を求めるがなし。

それでは、今日出された意見、協議を踏まえて、事務局より案として整理してもらい、次回決定することとする。

また、次回は、キャッチフレーズ（表題の部分）もあわせて検討することとする。

次に、「その他」について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

次回の協議会は、4月下旬以降を考えている。日程については、会長と相談して調整させていただき、決まり次第、開催案内を送らせていただく。

【丸山会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。